

【様式】

令和3年度 学校マネジメントシート

学校名 (久居農林高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		少人数教育を生かし、地域に根ざした専門高校を目指します ・「農業」「家庭」の専門性を生かし、地域社会を担う将来のスペシャリストを育成します ・「生物」「環境」「生活」の情報発信基地として、地域に貢献します
(2)	育みたい 児童生徒像	一人ひとりが主体となって活動し、社会貢献に意欲的に取り組み、自他共に認め合い、自己の成長を実感しながら、将来の地域を担いかつ地域のリーダーとなる意欲を持った生徒
	ありたい 教職員像	各担当教科の専門性を高めるとともに、授業形態や授業内容等の工夫・改善を行い生徒の成長に喜びを感じ、充実感を持って、丁寧かつ柔軟に業務に取り組む教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	○生徒 安心安全で楽しく過ごせる学校、自己の存在が実感できる学校、わかりやすい授業、進路希望の実現 ○保護者 子どもを成長させてくれる信頼できる学校、進路希望の実現、職業観・勤労観および基本的な生活マナーの定着 ○地域住民 地域に開かれた学校、地域を担いかつリードする人材を育てる学校 基本的な生活マナーの定着	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	○保護者 学力定着、進路希望実現、卒業後のケア 生徒が安心・安全に学べる環境 ○地域住民・産業界 教育資源の活用、知識や技能・意欲を持った生徒の育成、基礎学力 ○近隣保・幼・小・中・高校等 教育資源の活用、連携の強化	○保護者 生活指導等への理解と協力、学校行事への参加、生徒の基本的な生活習慣の確立 ○地域住民・産業界 教育方針等の理解、学校経営への協力と参画 ○近隣保・幼・小・中・高校等 教育方針等の理解と協力、連携事業の強化

○ 学習指導の充実

(1) 生徒が主体となる授業実践

わくわく農林塾を各コース2回以上実施することを活動指標に掲げたが、新型コロナウイルスのため活動が制限されてしまい、植物コース4回、土木・機械コース4回の実施のみにとどまった。感染症予防措置のため活動指標は未達であるが、最大限可能な取組を行っていただいたと考える。

わくわく農林塾で、小学生にドローン体験をさせた際、講師を務めた3年生の「子どもに教えるには、細かく具体的に伝えなければならず、違う学びがあった」という言葉には、「主体的な深い学び」を成就したことがはっきりと表れている。そのみならず、この言葉は、教師にとっても示唆されるものが大きい。

生徒の事後アンケートで「自分の成長を感じた」という回答が85%以上得られることを成果指標としたが、このコロナ禍において、それをはるかに上回る93.3%もの回答が得られたことを特筆したい。次年度は、本年度の成果を引継ぎ、ウィズ・コロナ時代における「主体的な学びの実践」を実現するべく取り組んでいただきたい。

(2) 授業評価による学びの実態把握

「授業が分かりやすい」という回答を85%以上得ることを活動指標として取り組んでいただいた。1・3年生は、86.3%・86.2%と、それを達成することができた。2年生においては、79.1%と未達成となってしまった。しかし、決して悲観するものではない。このコロナ禍にあって、3つの学年とも高い数値が得られたからである。数値の未達については、取り立てるべきものではないものの、特に、次年度3年生は、その学びの状況をモニタリングしつつ進路実現を果たしていけば、改善が図られると確信する。

○ キャリア教育

(1) 進路ガイダンスの充実

今年度は、年度当初からCOVID-19の感染拡大対策のための休校措置がなされ、予定していたガイダンスが実施できなかった。しかし、その代替措置を精力的に実施していただき、活動指標としての1・2年各2回、3年3回の実施、および成果指標としての生徒満足度95%を達成することができた。次年度も、こうした取り組みを継続していただきたい。

(2) 生徒の主体的進路選択、進路実現

キャリア教育として感染症予防策をとりながら、インターンシップ、現場見学会、出前授業、講演会など、生徒の進路への意識を高めたり、進路選択のヒントが得られたりするための取組を行っていただいた。進路希望の達成率が、年度末には100%となった。本年度はコロナ禍にあって、生徒の就職状況が危惧されたが、この上ない成果を上げていただいた。次年度もコロナ不況等、厳しい状況が懸念されるが、継続して取り組んでいただきたい。

○ 生徒指導の充実

(1) 服装・頭髪等の指導実践

ともすれば、頭髪・服装指導は、生徒と指導者の間で意思の齟齬が起りがちとなる。しかし、久居農林高校では、両者が十分納得した上で、適切な生徒指導が行われていると感じる。その理由は、久居農林高校の生徒指導の最大の特徴にある。それは、「生徒が進路決定の際の面接に戸惑ったり不利になったりすることがないように」という指導理念に基づいていることである。これは、指導の拠り所として「生徒にとって何が良いか」が最優先されていることの証であり、他校・他者にも誇れるものである。ジェンダーフリーの考え方を取り入れ、制服に関する校則の見直しを、スピード感をもって行っていただいた。現在行っている生徒の人権を重視した温かい指導を、次年度も継続していただきたい。

(2) 規律正しい生活習慣

あいさつ運動を実践する等、生徒が、毎日気持ちよく学びに向かえるよう取り組んでいただいた。その一環として、遅刻の総数を700以下に抑えることを成果指標に掲げた。遅刻については、年度末現在で815であり、残念ながら成果指標を達成できなかった。これは、COVID-19対策として、全校集会を行うことができず、意識づけの徹底が行えなかったことが一因と考えられる。これは、本年度の

特殊時事情でもあり、致し方ないことと考える。

学校関係者評価委員会でも、企業での人事担当をなさっている委員から、出席状況が良好なことは、採用の大きな要素になることをご教示いただいた。久居農林高校の生徒指導の「強み」は、「生徒のために」という指導方針にある。次年度も、その強みを発揮して、生徒自らが「生活習慣を身に着けることは、一にも二にも、自分自身の未来のためである」ということを自覚させる指導を継続していただきたい。家庭との連携や進路指導の側面からも生徒を支援し、取り組みを行ってほしい。

○ 保健管理の充実

(1) 健康管理

保健部と生徒、保護者、担任の4者が緊密に連携し、コロナ禍の困難な中であつたが、極めて良好な検診受診率を達することができた。また、精密検査の要する診断があつた生徒に対しては、専門機関の受診率を100%にすることができた。高い健康意識を生徒・保護者と共有することができたと考える。

(2) 保健教育

保健室での相談活動を中心に取り組んでいただいた。カウンセラーや発達障害支援員も活用して、友人関係や家庭状況、学校生活に不安を抱えている生徒を支援することができた。次年度も継続して、保健部には、学校における「セーフティ・ネット」としての重要な役割を担って頂きたい。

(3) 命を大切にすること

性教育講話、薬物乱用防止講座などを行い、保健指導を充実していただいた。次年度も、取り組みを継続してもらいたい。

○ 学校運営

(1) 教員の指導力向上

教員の指導力向上のために、本年度は「合理的配慮」「いじめ防止」「ICT活用」の研修会を実施し、それを指導に活用することができた。参加率、満足度ともほぼ指標に届く成果を得た。放課後の用務等で参加が困難な職員もあるため、それらの方には、研修会内容の還流を図ることが望まれる。

(2) 職員間の連携と情報交換・情報共有

「学校運営に参加していると思う」と回答する職員が60%と、数値的には低い結果が出ている（昨年度は76.9%）。「参加意識」については、個人により判断基準の差があると考えられるので、より実態を把握しやすい指標が得られるよう、この設問を改定してはどうかと考える。

(3) 情報発信、保護者・地域との連携

コロナ禍にあつて、他者とつながる取り組みが極端に減つたが、新聞報道される取り組みも多くあつた。ホームページも常時充実するよう取り組まれ、情報発信に努めている。教育の充実と進路指導の実績も高く、わくわく農林塾を筆頭とした地域連携の成果も現れ、地域からの評価が定着している。その成果は着実に表れ、久居農林高校を志願する中学校生徒数は、概ね良好である。しかし、令和3年度入試では、後期選抜時点で、残念ながら定員を割った。少子化の影響もあり、教育活動の充実と情報発信だけでは志望倍率の確保は望めない。生徒が急減する近い将来に向けて、構造改革的な対策を講じていく必要がある。

(4) 働きやすい職場環境

慢性的な過重労働が問題となっていたが、COVID-19による自粛等もあり、令和2年度は、数値の上で改善した。コロナ禍を契機として、重要業務と比較的重要でない業務が見えたのではなかろうか。学校運営業務のスクラップ&ビルドを徹底していくことで、より働く人にやさしい職場が実現できると考える。次年度以降の課題としていただきたい。

(5) 信頼される学校づくり

全校集会での意識啓発を目指したが、全校集会の中止を余儀なくされた。そこで、校内放送を活用しての式典や集会を行い、思いやりをもつこと、共生の精神等を呼び掛けていただいた。

(4) 現状と課題	教育活動	<p>○情報発信においては、コロナ禍で実践が少ない中、報道件数(新聞報道)16件、またテレビで本校の様子が数回紹介された。学校のPRにおいては、月3回以上のHP更新はなされたが、全コースの継続的な紹介が必要である。</p> <p>○ウイズコロナの時代の中、感染予防を徹底しつつ、計画的に教育活動を進める。</p> <p>○コロナ不況で求人等厳しい状況が予想される中、計画的にキャリア教育を進め、生徒の進路意識を高め、進路実現を図る。</p> <p>○今年度評価いただいた取組については継続し、さらなる充実化を図る。</p>
	学校運営等	<p>○今年度入学者選抜に引き続き、本校への志願者数が減少している。志願者数減少に歯止めをかけるため、さらなる特色化・魅力化を図り、情報発信することで志願者開拓を行う。</p> <p>○総勤務時間は、ここ数年縮減傾向にあるが、業務の平準化や部活動顧問の負担軽減を図り、多忙化の解消を図る必要がある。</p> <p>○生徒急減期に向けて、さらなる特色化を進めるとともに、中学生が本校の教育内容について、より理解を深めることができるよう情報発信に力をいれる。</p> <p>○今後の本校の学科・コースの在り方および校内体制について議論し、検討する。</p> <p>○行事・業務等のスクラップ&ビルドを行うことで、多忙感を解消し、生徒と向き合う時間を確保するとともに勤務時間の縮減を図る。</p>

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の生徒への丁寧かつ柔軟な指導は、生徒たちの学習意欲を高めるためとともに、自らの進路の実現を拡大させる。 ・生徒の自ら学ぼうとする意欲を高めるため、自らが課題を設定し解決する学習活動を推進する。 ・生徒の確かな学力の向上を図るため、教員が積極的に授業改善を進め、「わかる授業」「興味を喚起する授業」を行う。 ・生徒の進路希望を実現するため、組織的なチーム久居農林の進路指導をすすめることが必要である。あらゆる教育活動をキャリア教育の視点で捉え、就職・進学だけでなく、その先の社会活動を見通した久居農林の進路指導をすすめる。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に提供する学習内容の充実や学力向上につなげるため、プロジェクト学習などを始めとした主体的な学習活動の推進を図り、全教職員が連携して授業改善に努める。 ・不祥事等を絶対起こさないよう学校信頼向上委員会での取組を推進し、教職員間でより一層地域に信頼され必要とされる学校となるよう全教職員が日々声を掛け合い実践していく。 ・教職員の業務に充実感を得ることができるよう、組織で動いて情報共有を密にして共働していくことが重要であり、チーム久居農林をつくっていく。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】 取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】 取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重要取組

目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の 充実 (教務)	<p>(1)生徒が主体となるような授業を実践 【活動指標】 わくわく農林塾を農業・家庭学科各コース2回以上実施 【成果指標】 生徒への事後アンケートにより自分の成長を感じたという回答85%以上</p> <p>(2)生徒による授業評価を実施 【活動指標】 生徒へのアンケートにより授業満足度を把握 【成果指標】 授業がわかりやすいという回答85%以上</p>	<p>(1) 【活動指標】 コロナ禍のため、農業科は食品コースと植物コースと土木・機械コースのみ実施。生活デザイン科は食生活コースのみ実施。 【成果指標】 農業科95.0% 生活デザイン科%95.7%</p> <p>(2) 【活動指標】 生徒へのアンケートを実施 【成果指標】 1年生 94.4% 2年生 92.3% 3年生 88.9%</p>	
キャリア教育 の充実 (進路)	<p>(1)進路ガイダンスを充実させる 【活動指標】 3年生3回、1・2年生各2回 【成果指標】 生徒満足度95%以上の維持</p> <p>(2)生徒が主体的に進路を選択し、実現させる力を養う 【活動指標】 生徒の主体性の涵養や自己理解の深化、自己肯定感の向上に向けて、インターンシップや担任面談、進路ガイダンス等を活用するとともに、進路実現に繋がる、面接や履歴書等の指導を充実させる。 【成果指標】 就職内定者数(率)年内95%以上</p>	<p>(1) コロナウイルスの影響で中止になったガイダンスの代替措置を行い、進路ガイダンスは指標を満たす実施ができる見込である。学習習慣の定着、基礎学力の向上、進路選択、進路決定、内定後等に繋がる指導を行った。進路ガイダンスでは生徒満足度が98.2%となり、成果指標を達成できた。</p> <p>(2) 各クラス・各学科・コース単位で、インターンシップや現場見学会、出前授業、講演会などを感染拡大防止に配慮しつつ、できる限り行うとともに、面接や履歴書などの指導を行い、就職内定率は年内98.4%となり、成果指標を達成できた。</p>	
生徒指導の 充実 (生徒指導)	<p>(1)服装・頭髪等の身だしなみを整える 【活動指標】 頭髪・服装指導 年間 8回実施 全校集会による声かけ 【成果指標】 頭髪再指導が8%以内<年度最終></p>	<p>(1)頭髪・服装指導 年間7回実施、9月休校だったため。頭髪再指導は、1年107人、2年97人、3年144人、合計348人で約8.3%であった。頭髪の規程が変わったため、男子の長さ指導が多くなった。</p>	◎

	<p>(2)いじめを許さない学校づくり 【活動指標】 ラポール(いじめ)アンケート 年間3回実施 面談週間 年間3回実施 特別面談1回実施 声かけ週間 第3週年間10回実施 【成果指標】 いじめ解消率100%</p> <p>(3)生徒に規則正しい生活習慣を身につけさせる 【活動指標】 遅刻カウンター・遅刻カードの活用・生活習慣の改善を目的とした特別指導・生徒会主催の朝のあいさつ運動の実施 【成果指標】 学校全体の遅刻の総数を700以下(全校生徒数以下)</p>	<p>(2)ラポールアンケートをグループフォーム記名式で行った。回収に時間はかかるが、生徒は誰にも見られずに回答でき、小さなことでも記入してくれるようになった。特別面談や声かけ週間などの取り組みもあり、いじめ解消率は100%達成した。</p> <p>(3)遅刻の総数は1116回、1年240回、2年462回、3年414回で目標の700以下を達成することができなかった。1回も遅刻していない生徒は401名で半数以上だった。10回以上遅刻している生徒は、25名だった。遅刻が常習化している生徒への指導が大切だと思われる。</p>	
<p>保健管理の充実 (保健)</p>	<p>(1)健康管理を充実させる。 【活動指標】 生徒自身が健康状態を把握し、健康の保持増進の意識を高め、健康管理に対する指導を行う。 【成果指標】 すべての検診について受診100%にする。 (2)相談活動を充実させる 【活動指標】 保健室での相談活動を中心に行い、スクールカウンセラーや発達障がい支援員と連携する 【成果指標】 スクールカウンセラーによる相談を5時間×32回実施おこなう 発達障がい支援員を月6時間招聘し生徒の学校生活への不安を取り除く手助けをする。生徒のアンケートによる満足度70%以上にする (3)命とからだを大切にすることを育む教育活動を充実させる 【活動指標】 生徒向け研修会等を実施する 【成果指標】 学年別で各年間1回実施。満足度80%にする。</p>	<p>(1)今年度は一部の検診においては100%受診することはできなかった。</p> <p>(2)保健室の健康相談とスクールカウンセラーや発達障がい支援員の活用により相談活動を充実できた。友人関係や家庭状況、学校生活など不安を抱えている生徒もいるため継続した支援をする必要がある。生徒によるアンケートでも「困ったことや心配事等を先生や友達に相談できる」と80%以上の生徒が答えている。</p> <p>(3)性教育講話・薬物乱用防止講座を行うことで保健指導を充実させた。生徒の90%は内容に満足しており感想にも授業では聞けないことを詳しく説明してもらって良かった。必要な知識なのでこれから役に立てていきたいとの意見が多かった。</p>	

改善課題

- 1) 新型コロナウイルス感染症対策のため、わくわく農林塾もかなり制限され、農業科は食品コースと植物コースと土木・機械コースのみ実施であり、生活デザイン科は食生活コースのみ実施であったが、継続的に毎年すべてのコースが関わっていく体制作りを行っていきたい。
- 2) 上記の活動に加え、今年度は、榊原地域との連携事業をすすめているが、R4年度から全コースで本格的に取り組んでおり、学校のPRも兼ねて生徒たちの活動として進んでいくことが学校のPRにもなる。
- 3) 進路ガイダンスの設定については、コロナ禍のため、随時判断が求められることから、子供たちを預かる学校として、適切な判断を行っていくことが求められる。
- 4) 生徒の遅刻回数が極めて多いことから、職員が一丸となり粘り強く生徒指導に向けて取り組んでいくことが必要である。また、基本的な生活習慣(あいさつ・掃除・仲間同士の助け合いなど)を身につけることに重点をおくことが必要である。さらに、遅刻が多い生徒に対して、粘り強い指導が必要である。

5) 近年、保健室での友達関係の相談が多い。不安を抱えている子供たちのために、支援員やカウンセラーの取り組みの充実をさらに強化していくことが必要である。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上の取組み	(1) 教職員の各種研修会を実施し、指導力向上に努める(コンプライアンス、働き方改革推進など含む) 【活動指標】 各学期1回 【成果指標】 参加者の満足度 85%以上	○外部講師におけるコンプライアンス講座を実施。○満足度 83%。 また、校長から職員会議毎にコンプライアンス、服務規律について話を行った。	◎
チームワークの向上・意欲の増進	(1) チーム久居農林の分掌、学科、コース、学年間の連携、情報交換、情報共有に努める 【活動指標】 教職員アンケートにより職員の満足度を把握する 【成果指標】 昨年度より情報共有が進んだという回答 70%以上	○各分掌、コース、学年の情報共有 82.7%	
情報提供による信頼の構築	(1) 情報発信を積極的に行う。 【活動指標】 学校HPの充実 学校のPR(新聞報道、テレビ) 【成果指標】 報道 20 件以上・ホームページ月 3 回以上の更新	○学校 HP では、各コース紹介ビデオを作成。外部からの反響があった。 ○新聞報道件数 15 件。ホームページ更新は 3 回以上更新達成。	
保護者・地域との連携	(1) わくわく農林塾の実施 【活動指標】 生徒へのアンケートにより満足度を把握する。 【成果指標】 参加してよかったという回答 85%以上	○目標を持って活動に取り組めた生徒の満足度 85.1%	
働きやすい職場環境づくり	(1) 会議の回数削減や時間短縮 【活動指標】 各分掌等に聞き取りを行う。 【成果指標】 全ての会議の80%が60分以内で終了 (2) 過重労働改善への取組 【活動指標】 原則として、毎月第1第3月曜日を定時退校・ノー部活デーとする。各定期考査で1日(半日単位も可)以上の年休を取得する。学校閉校日を設定。 各定期考査中をノー残業デーとする。 【成果指標】	○年 360 時間を超える時間外労働者は、9 名。 ○月 45 時間を超える時間外労働者の延べ人数は、50 名。 ○1 人当たりの月平均時間外労働時間を 30 時間以下に対して、75 人中 62 名が達成。(83%の達成率) ○年休取得については、4 月から 1 月までの 10 ヶ月の期間で平均 11 日間の取得。	

	<ul style="list-style-type: none"> ・年 360 時間を超える時間外労働者数0人 ・月 45 時間を超える時間外労働者の延べ人数を 0 人 ・1 人当たりの月平均時間外労働時間を 30 時間以下にする。 ・一人当たりの年平均休暇取得の目標 15 日以上取得。 ・部活動の休養日を週 1 日設定。95%以上 ・定時退校期間中の定時退校者数の割合 期間中の 80%以上 ・学校閉校日年 2 日設定(8月13日、1月4日) 	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動の休養日は、週 1 日設定 100%。 ○校内会議では 1 月末までに 40 回の会議を設定、うち 16 回の会議が 60 分以内に終えているが、会議短縮の手立てがまだまだ必要。 ○定時退校期間中の定時退校者数の割合は、94.9%。 ○学校閉校日は計画通り 2 日間。 	
--	--	---	--

信頼される学校づくり	<p>(1) 定期的な朝の全校集会を利用した生徒および教職員への意識啓発</p> <p>【活動指標】 教職員、校長が全校集会で生徒に様々な視点から講話を行う。</p> <p>【成果指標】 月 2 回講話実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○校長からの講話を全校集会として年間 6 回実施。新型コロナ対策で出来ないときがあったが、可能な限り全体集会を行った。後半はオンラインで実施。内容は新型コロナ感染に関わる注意喚起が中心となった。 	
------------	--	---	--

改善課題

- ・教職員として、生徒に柔軟な対応かつ丁寧な指導を行っていくことや寄り添っていくことが生徒たちの成長には不可欠である。また、教育公務員としてコンプライアンスを遵守していくことは当然のことであり、毎年の研修を継続して行っていく事が重要である。
- ・日々の学校生活を運営していく上で、重要なことは、私たち教員が日常の子供たちへの声かけを積極的に行い、そして普段の様子を観察し、生徒たちが不安や困っていることがないのかなど現状を把握し見守っていくことが重要であり、今後も継続的に朝の立ち番を保護者の皆様にお申し送り実施していきたい。
- ・働きやすい職場環境づくりでは、45 時間を超える時間外労働時間が多い教職員があることや、会議の時間においても短縮できるよう、さらに議論が必要である。
- ・全体集会では、昨年度新型コロナウイルス感染症対策で自粛していたが今年度は月 2 回の実施を行った。状況によっては各ホームルームでのオンラインでの集会を実施した。このような形式も今後増えることが予想され、全体集会の持ち方についても十分な職員同士の共有を生徒にとってプラス思考で進めていきたい。
- ・学校の PR については、新型コロナウイルス感染症のため、本年度は中学生向けの動画配信を各コースで行った。来年度もさらに魅力あるより良い PR のため全コースが作成し、本校のコースへの理解を中学生や保護者等に PR 出来るように継続して作成することが必要と考える。

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none"> ・働きやすい環境づくりによりより一層環境について配慮いただき、学校の運営に教職員が取り組めるように進めていただきたいと考える。また、新型コロナウイルス感染防止対策をすることで、時間を費やす準備・計画など大変かと考える。その時間においても過重労働となっているのではないだろうか。 ・進路ガイダンスを進めていく上で、生徒たちへの職業への興味付け等、様々な面で進めてもらっている。教職員からの話しかけが多い中、学生間のグループワークも効果が出ている場合も見受けられ、自己肯定感をつけていく事も大切である。 ・全校集会は、生徒たちの成長を促す側面もあることから、今年度は重要と考え、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、学年別に、月 2 回（前年度は新型コロナウイルス感染対策で実施なし）を平均として行ってきた。また、場合によってはオンラインでも進めた事もあったが、先行きの見えない中、オンラインでの手法も益々増えてくると思われる。組織全体で職員が一丸となり対応して計画していくことが必要である。 ・外部の方からもここ最近では、生徒から挨拶をしてもらえることが多くなっている。今年度は PTA 役員の方々にも登校指導に参加していただき、生徒たちへの声かけをいただいております、継続して取り組みを進めていくことは重要である。
---------------------	---

6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の地域連携を代表する取り組みである「わくわく農林塾」においては、令和4年度も農業学科、家庭学科、そして全コースにおいて、取り組みを進めていくことが必要であり、コロナ禍のなかでの適切な計画を踏まえて学校として全力で地域連携を進めていきたい。 ・また、令和3年度当初に榊原地域との連携事業をすすめているが、R4年度から全コースで本格的に取り組む体制を進めていきたい。また、生徒たちの実践となる地域連携は、生徒たちの満足感や充実感にも繋がる取り組みとなることから、学校でも情報共有を進めつつ学校が組織として動いていくことが大切である。実践活動では、生徒たちの活躍をPRし、地域に広めることにも重点を置きたい。 ・進路ガイダンスでは今後も新型コロナウイルス感染症対策の中で進めていく事になることから、適切な判断を行って生徒の進路希望を充実させていくことが大切である。また、コロナ禍であることから、進路指導としてのオンライン化も含め、充実した校内でのICT教育の取り組みを学校として進めることが大切である。 ・学校では、教職員が一丸となり組織となって情報共有を持ち、粘り強く様々な取り組みを進めていくことが求められる。特に、将来生徒が社会へ出て行くことから、生徒の基本的な生活習慣の「あいさつ」をきちんと身につけることに来年度も重点をおきたい。さらに、命とからだを大切にする教育活動を進めるため、生徒向けの研修会も継続して取り組んでいく。
<p>学校運営についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の各種研修会を実施することやコンプライアンス研修は、自らの指導力向上、教職員としての使命と責任を自覚するためにも毎年実施したい。(ICT研修、コンプライアンス研修等) ・学校での情報共有は、極めて重要である。組織としてより良く動くためには情報共有を適切に行い、生徒により丁寧かつ柔軟な指導を行っていくことが大切と考える。教職員の学校運営に関わって「情報共有」は令和4年度の重点におきたい。 ・情報発信は継続してHPや新聞報道での継続的な取り組みとして進めていく。全コースの取り組みとなるようにしたい。 ・今年度から始まった津市(榊原地域)との地域連携は、令和3年度から各コースが準備を進め取り組んできた。令和4年度には生徒たちにとってプラスの成果が出るよう試行錯誤して取り組むことが必要であり、同時に学校としての特色を出しながら地域から信頼される学校として進むことの共有を全職員が行って進んでいきたい。 ・学級減が進む中、今後の学校のあり方について、より良い方向性を検討していくことが必要であり、令和4年度から学校改革を進めていくこととしたい。